

第 125 回循環器学会九州地方会(平成 30 年 12 月 1 日)

会場 アクロス福岡

演題：昏迷・亜昏迷状態における自律神経活動に関する検討

医療法人敬愛会 城山病院

心療内科 藤岡俊宏、診療情報管理科 村崎裕二

目的：被害的妄想の増悪により長期に及ぶ昏迷・亜昏迷の顕在時に発現した持続性洞頻脈の発現機序および β -遮断剤投薬前後における自律神経活動の推移に関してホルター心電図の周波数領域解析法を用いて検討を加えた。

対象・方法：対象は難治性統合失調症 2 例。交感、副交感神経の活動指標は各々 VLF・LF、HF の 3 成分とした。

結果：非 ISA 作用の β 遮断剤投薬前は 2 例の何れも投薬後に比し全成分が極めて低値であり、かつ VLF が LF、HF より有意に高値である成績が得られた。また投薬前の心拍の揺らぎは高速度再生時に消失していることが視認された。

まとめ：昏迷・亜昏迷の場合 1)洞頻脈の主因は超低周波数成分が優勢となり招来される、2)非 ISA 作用に分類される β 遮断剤は自律神経活動が著しく減弱した環境下で ISA 作用を発揮しうる可能性が示唆された。